

ICM Logger データベース設定の同期

目次

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[ロガー同期](#)

[コンフィギュレーションデータをエクスポートして下さい](#)

[コンフィギュレーションデータを同期して下さい](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

このドキュメントとでは、Cisco Intelligent Contact Management (ICM) 環境で、あるロガーからそのペアのロガーへ、ロガー設定データを同期する方法について説明します。

[前提条件](#)

[要件](#)

Cisco は持っています Cisco ICM のナレッジを推奨します。

[使用するコンポーネント](#)

この資料に記載されている情報は基づいた on Cisco ICM バージョン 4.6.2 および それ 以降です。

本書の情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期 (デフォルト) 設定の状態から起動しています。稼働中のネットワークで作業を行う場合、コマンドの影響について十分に理解したうえで作業してください。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

[ロガー同期](#)

ロガー A とロガー B 間のロガー コンフィギュレーションデータを同期するためにこれらの手順

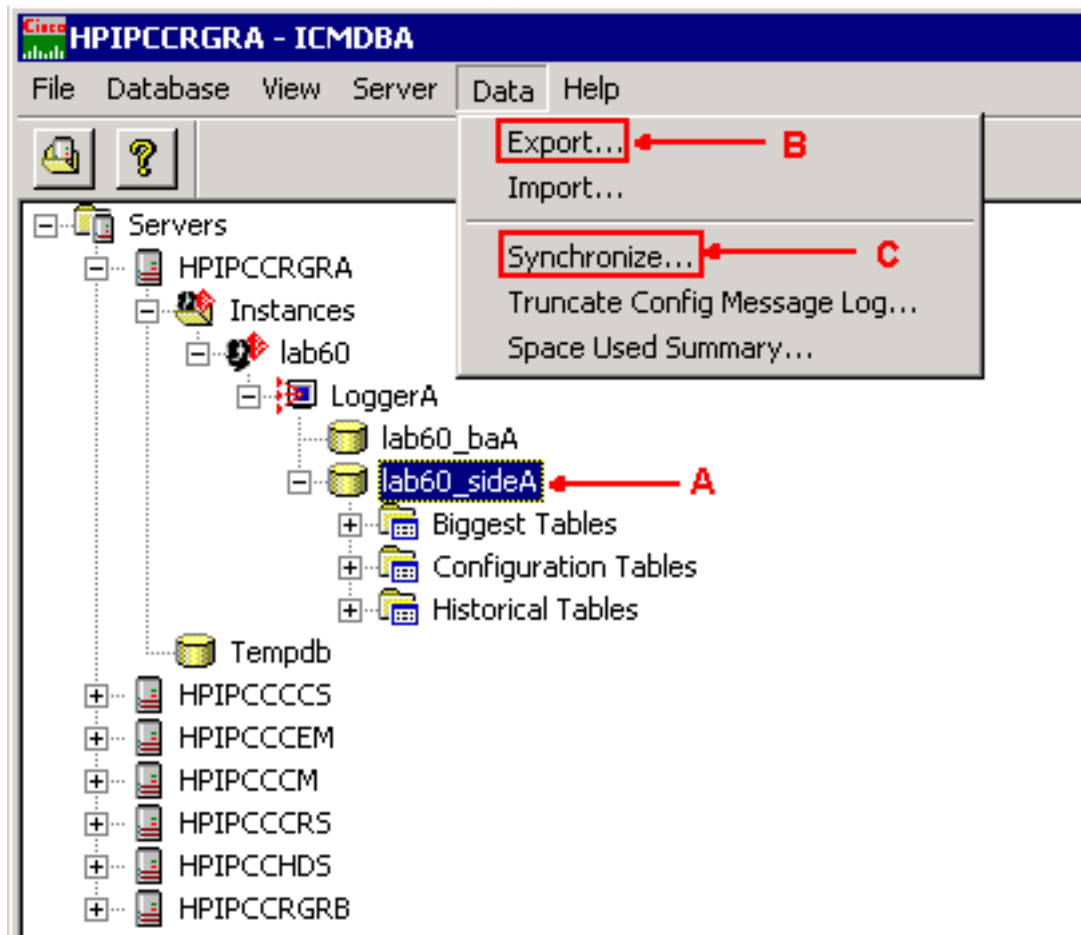
を行って下さい:

1. [ロガー A およびロガー両方 B のコンフィギュレーションデータをエクスポートして下さい](#)
2. [ロガー A とロガー B 間のデータベースのコンフィギュレーションデータを同期して下さい](#)

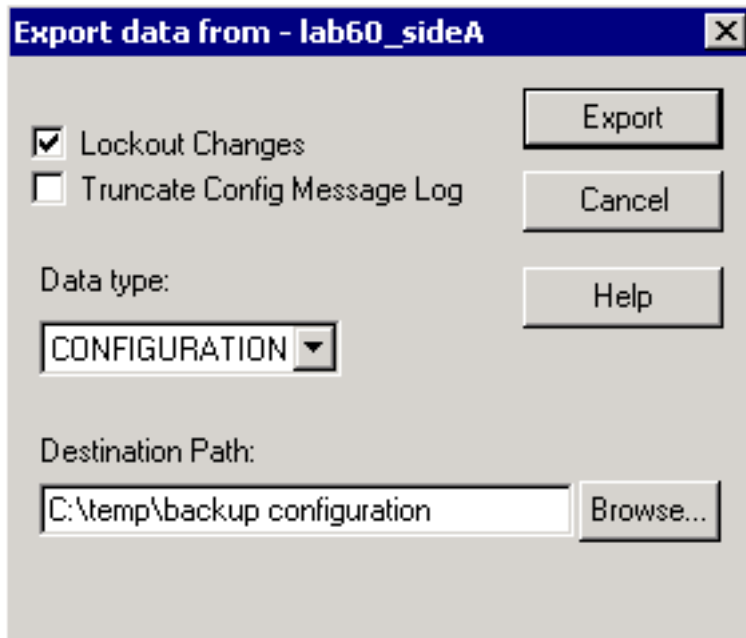
[コンフィギュレーションデータをエクスポートして下さい](#)

ロガー A およびロガー両方 B のコンフィギュレーションデータをエクスポートするためにこれらのステップを完了して下さい:

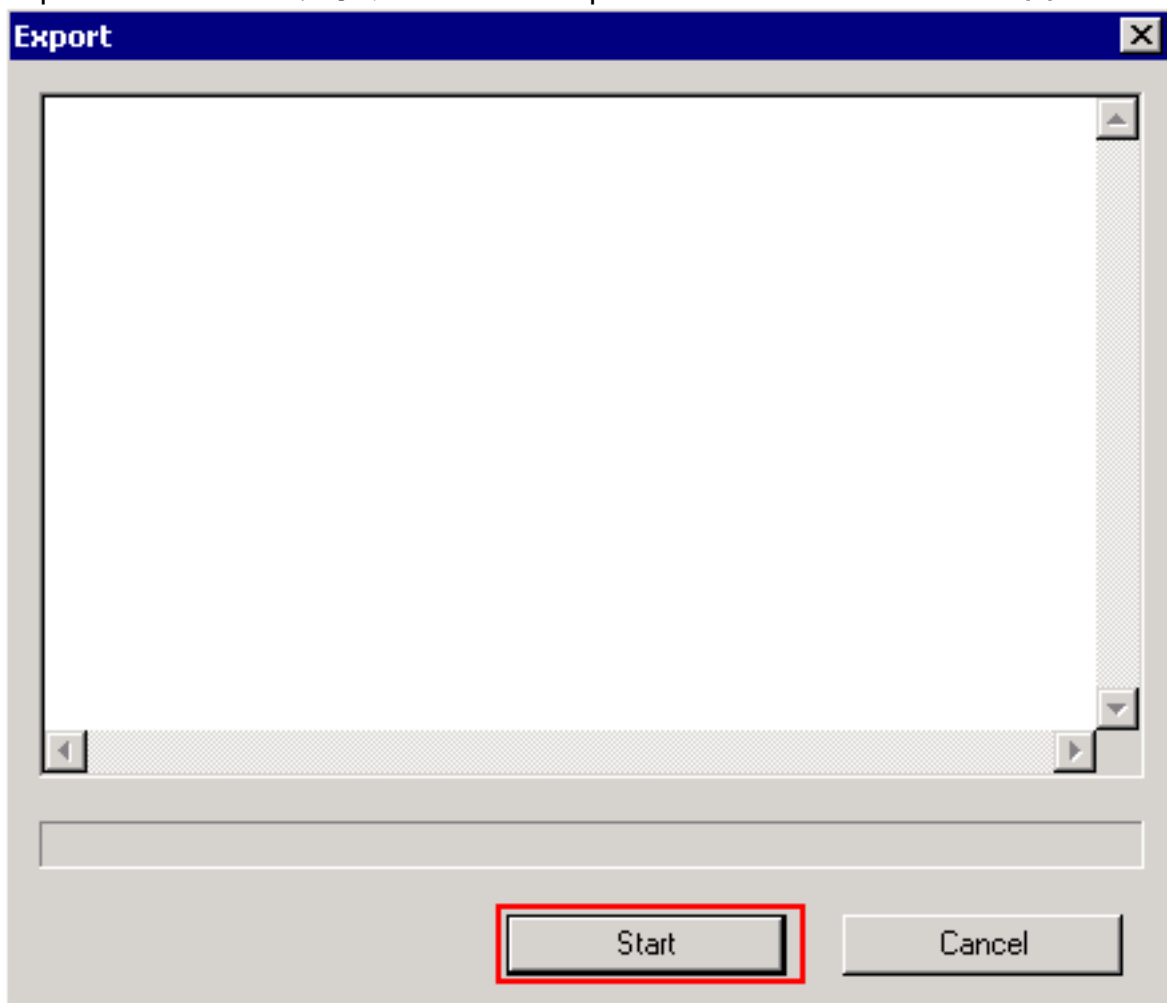
1. ロガー サービスを停止して下さい。
2. Start > Run の順に選択し、ICMDBA をタイプし、ICMDBA を開始するために『OK』 をクリックして下さい。
3. サーバ、例およびノードを規定 するために [Figure1](#) で矢印 A によって示されているようにデータベースを選択して下さい。 **図 1 – ICMDBA**



4. 矢印 B によって示されているようにメニュー・バーから、[図 1](#). Data > Export... の順に選択して下さい。 Export ウィンドウは下記のように表示されます:[図 2 –エクスポート データ](#)



5. データタイプ ドロップダウン リストから『Configuration』を選択して下さい。
6. データ宛先パスを示すのに **Browse** ボタンを使用して下さい。
7. データベースへの変更をエクスポート オペレーションの間に行わないようにするために **ロックアウト変更** をチェックして下さい。
8. Export ウィンドウを表示するために『Export』をクリックして下さい: 図 3-エクスポート



9. コンフィギュレーションデータをエクスポートするために『Start』をクリックして下さい。プロセスが完了するとき操作は正常だったことを示すメッセージが表示されます。終了の近くで『OK』をクリックし、次にクリックして下さい。
10. ロガー サービスを開始して下さい。

コンフィギュレーションデータを同期して下さい

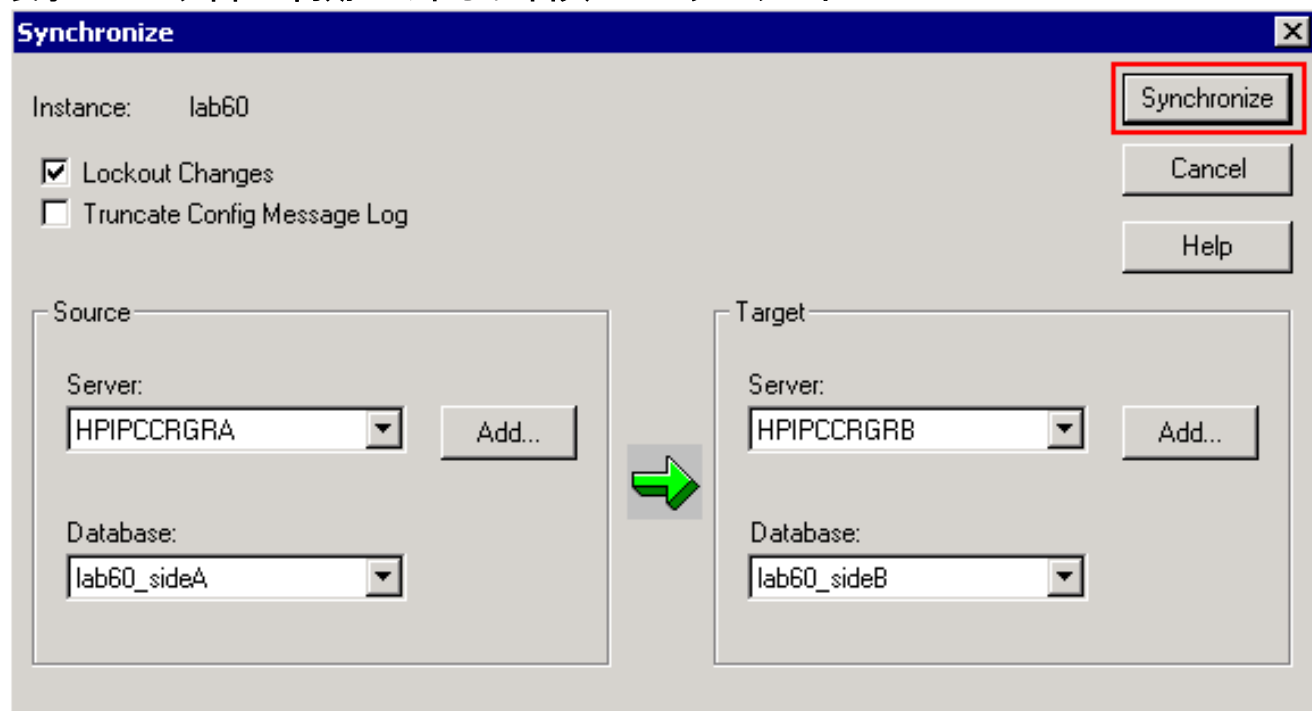
このプロシージャはロガーから組み合わせられたロガーに有効なコンフィギュレーション データをコピーします。 ロガー データベースを同期するためにこれらのセクションの 1つのステップを完了して下さい。

- [ロガー A からロガー B にコンフィギュレーションデータをコピーして下さい](#)
- [ロガー B からロガー A にコンフィギュレーションデータをコピーして下さい](#)

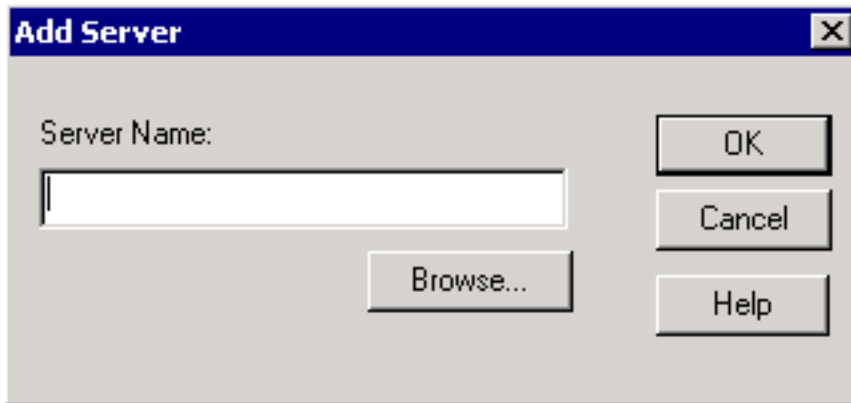
ロガー A からロガー B にコンフィギュレーションデータをコピーして下さい

ロガー A のコンフィギュレーションデータが有効であり、ロガー B にデータをコピーしたいと思ったら場合これらのステップを完了して下さい:

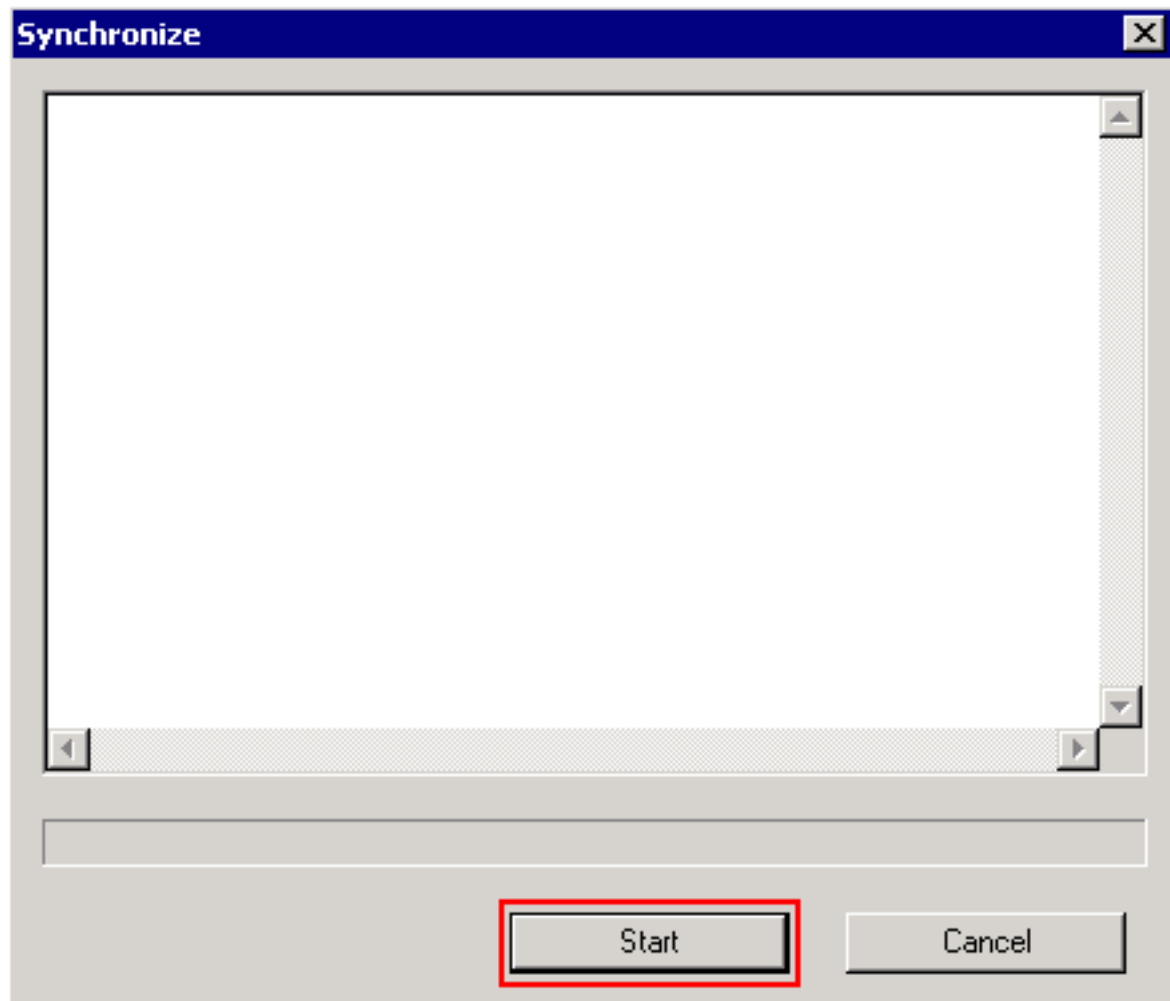
1. ロガー B のロガー サービスを停止して下さい。
2. ロガー A の ICMDBA を開始し、ロガー A からロガー A が出典であるロガー B がターゲットであるロガー B にコンフィギュレーションデータをコピーするためにこれらのステップを完了すれば:サーバ、例およびノードを規定 するために矢印 A によって示されているようにデータベースを [図 1](#) 選択して下さい。矢印 C によって示されているようにメニューから、[図 2](#). Data > Synchronize の順に選択 して下さい。 Synchronize ウィンドウは下記のように表示されます:[図 4 -同期して下さい-出典およびターゲット](#)



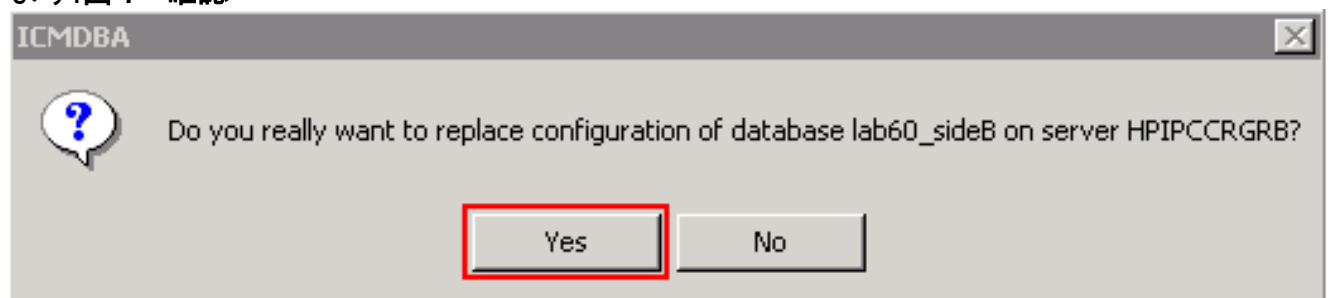
データベースへの変更を同期オペレーションの間に行わないようにするためにロックアウト変更をチェックして下さい。サーバ名およびデータベースを出典に選択し、ドロップダウンリストから目標として下さい。ドロップダウン リストにない追加サーバ ボックスでサーバ名を『Add』 をクリックし、サーバを選択するために入力して下さい:[図 5 -サーバを追加し](#)



て下さい 『Synchronize』 をクリックして下さい。同期ボックスは下記のように表示されます。図 6-同期して下さい



データを同期するために 『Start』 をクリックして下さい。確認ウィンドウは下記のように表示されます:図 7-確認



コンフィギュレーションデータが取り替えられるおよびデータベースが常駐するサーバ名を確認して下さいデータベース名を。両方とも正しい場合、続くために 『Yes』 をクリックして下さい。プロセスが完了するとき、操作は正常だったことを示すメッセージが表示されます。終了の近くで 『OK』 をクリックし、次にクリックして下さい。

3. ログ A のログ サービスを開始して下さい。

ログ B からログ A にコンフィギュレーションデータをコピーして下さい

ログ B のコンフィギュレーションデータが有効であり、ログ A にデータをコピーしたいと思ったら場合これらのステップを完了して下さい:

1. ログ A のログ サービスを停止して下さい。
2. ログ B の ICMDDBA を開始し、ログ B からログ B が出典であるログ A がターゲットであるログ A にコンフィギュレーションデータをコピーするためにこれらのステップを完了すれば:サーバ、例およびノードを規定 するためにデータベースを選択して下さい。矢印 C によって示されているようにメニューから、[図 2](#). Data > Synchronize の順に選択して下さい。Synchronize ウィンドウは表示されます ([図を 4](#)) 参照して下さい。データベースへの変更を同期オペレーションの間に行わないようにするためにロックアウト変更をチェックして下さい。サーバ名およびデータベースを出典に選択し、ド롭ダウン リストから目標として下さい。ド롭ダウン リストにない追加サーバ ボックスでサーバ名を『Add』 をクリックし、サーバを選択するために入力して下さい ([図を 5](#)) 参照して下さい。『Synchronize』 をクリックして下さい。同期ボックスは表示されます ([図を 6](#)) 参照して下さい。データを同期するために『Start』 をクリックして下さい。確認ウィンドウは表示されます ([図を 7](#)) 参照して下さい。コンフィギュレーションデータが取り替えられるおよびデータベースが常駐するサーバ名を確認して下さいデータベース名を。両方とも正しい場合、続くために『Yes』 をクリックして下さい。プロセスが完了するとき、操作は正常だったことを示すメッセージが表示されます。終了の近くで『OK』 をクリックし、次にクリックして下さい。
3. ログ A のログ サービスを開始して下さい。

関連情報

- [Cisco ICM Logger が同期できない理由](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)